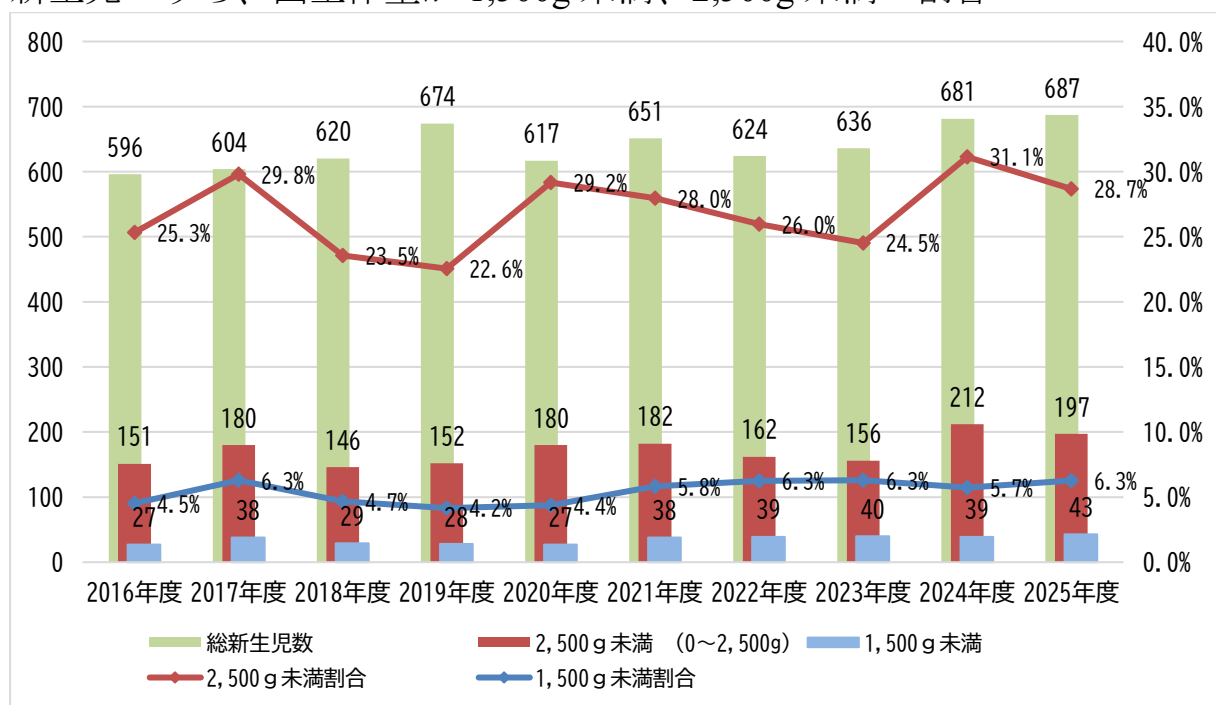


新生児のうち、出生体重が 1,500g 未満、2,500g 未満の割合



当院は、高次機能病院の総合周産期母子医療センターであり、早産や胎児発育異常症例の取扱いが多いことから、低出生体重児の出生数及び出生率は、一般の分娩取扱施設に比して高く、出生体重が 1,500g 未満、2,500g 未満の割合は、2015 年以降、前者が 4.2～6.3%、後者が 22.6～31.1%である。その間、総分娩数は若干増加しているものの、低出生体重児の出生数及び出生率は概ね横ばいで推移している。また、2500g 未満の出生児の割合は 2020 年度の 29.2%をピークに減少傾向がみられるものの、全体としてはおおむね横ばいといえる。妊婦の高齢化、合併症が増えている中、安定した周産期管理ができていると考えられる。

データ提供 看護部 B-3 病棟（産科）